

トピックス **プラス**

9/12~18

**交流と親睦を深めた7日間**

9月12日から18日までの7日間、姉妹都市のアメリカ・サウスレイク市から、国際交流協会の会員11人が登米市を訪れました。訪問団は13日に市役所迫庁舎を表敬訪問。歓迎セレモニーが行われ、市長とジョン・テレル協会長があいさつし、市に記念品として絵画が贈呈されました。訪問団は期間中、書道・そば打ち体験などの日本文化を満喫しました。



▲友好の証として市へ絵画が贈呈されました

9/19

**正しい知識で防火の大切さを**

第19回幼年防火まつりが9月19日、登米祝祭劇場の屋外ステージで開催されました。市内の15幼稚園、9保育所(園)から園児、引率者、関係者ら約900人が参加。園児たちは消防救助隊員によるアトラクションを見学したり、消火訓練を実演したりするなど、楽しみながら「火」に対する正しい知識と、防火の大切さを学んだ一日となりました。



▲ちびっこ特別救助隊による消火訓練

9/27

**自動二輪車愛好会が交通安全を呼び掛け**

佐沼警察署と北宮ライディングクラブによる、秋の交通安全二輪車パレードが9月27日に行われました。同署で出発式を行った後、自動二輪車で迫町内をパレード。途中で新田第一・第二幼稚園に訪問し、園児たちに交通安全を呼び掛けました。園児たちは、クラブ会員の大きな自動二輪車に乗せてもらい、喜んで交通安全を誓っていました。



▲自動二輪車に乗せてもらい交通安全を誓う園児たち

10/13

**地権者の理解で長沼ダムの完成近づく**

長沼ダム定礎式が10月13日、迫町北方地内で行われ、国や県、市の関係者と地権者が参加しました。式典は地元の飯土井囃子の太鼓演奏でオープニング。来賓のあいさつの後、工事経過の報告や定礎の儀式などが行われました。最後は市長の音頭で万歳三唱。くす球が開放され花火が打ち上げられました。なお、長沼ダムは平成24年度に完成予定です。



▲市長の音頭で万歳三唱が行われた定礎式

**伊豆沼周辺コースを悠々と**

迫で水土里の路ウォーキング

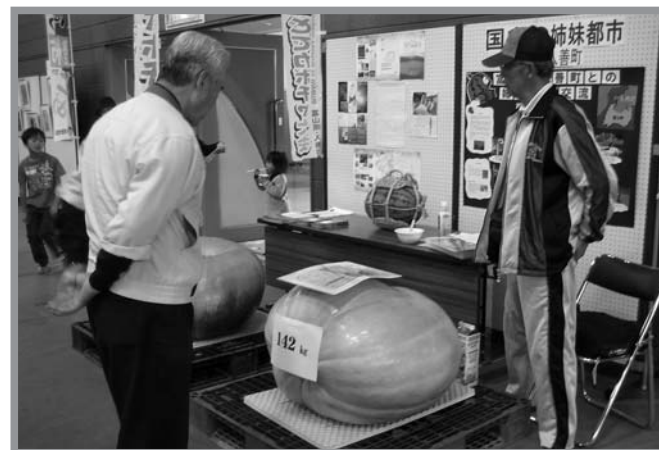
水土里の路ウォーキング(新田地区アグリビジネス検討委員会主催)が10月13日に行われ、県内外から31人が参加しました。JR新田駅を起点に、伊豆沼周辺の約3kmのコースをウォーキング。途中で稲刈りの体験や、生態系に配慮するため、魚や水生生物が水路と水田を行き来できるように設置された水田魚道、魚のすみかとなる魚巣ブロック、排水機場などの施設も見学しました。昼食は新米のおにぎりと、とん汁が食べ放題。そのほか、参加者全員にみそ400g、ひとめぼれの新米1kgがプレゼントされました。



▲伊豆沼周辺を歩きながら稲刈り体験や施設見学が行われました

**米山で巨大カボチャ栽培にチャレンジ  
大きさと重さにビックリ!**

市と友好姉妹都市交流を行っている富山県入善町の農家団体「あらせ野どてカボチャ友の会」から昨年、巨大カボチャ(通称:どてカボチャ)の種と栽培方法などの指導を受けて、今年初めて米山町中津山千貫地区の農家7件が巨大カボチャ作りにチャレンジしました。もっとも大きく育ったカボチャの重さは142kg。10月13、14日に開催された産業フェスティバルに展示され、会場に訪れた人たちは、手で触ったり叩いたりするなど、あまりの大きさと重さに驚きを隠せない様子でした。



▲産業フェスティバルの会場に展示された巨大カボチャ

**商品化目指し生徒がプレゼン**

東和中で起業教育プレゼンテーション

生徒が商品を企画から生産、販売までを行う起業教育のプレゼンテーションが9月26日、東和中で行われました。この事業は、豊かな職業観を持った子どもの育成をねらいとする起業教育で、県教育委員会から指定を受けて3年目となります。プレゼンテーションでは生徒が興じた会社11社が参加。生徒たちは、木・竹材製品や繭細工、手芸品など趣向を凝らした自慢の商品を素材から価格設定まで詳しく説明しました。各会社の試作品は商品化され、「J Aみやぎアグリフェスタ」で試験的に販売されました。



▲生徒たちが商品の素材から価格まで説明したプレゼンテーション